ルールも活動も 僕らが決める

フリースクール「りんごの木」開校

越谷市内のNPOが運営する不登校の子供たちのためのフリースクール「りんごの木」が、越谷市千間台西一丁目に今月開校した。「りんごの木」では、子ども会議に加わってルールや活動内容を決める。また、登校や授業を強制することもない。子どもたちの自主性を最大限に尊重する姿勢は、公教育と違うもうひとつの教育の選択肢を提示している。

越谷

「りんごの木」の活動は一九九〇年六月に、不登校の子どもたちが週に数回、市民会館などに集う「フリースペース」として始まった。同時に、親や市民たちが不登校など教育問題を学び合う場として「越谷らるご」をつくった。活動の幅が広がっていくなかで、昨年「らるご」がNPOの法人格を取得。学習塾の教室だった建物を借りて、「フリースクールりんごの木」を四月八日に開校させた。

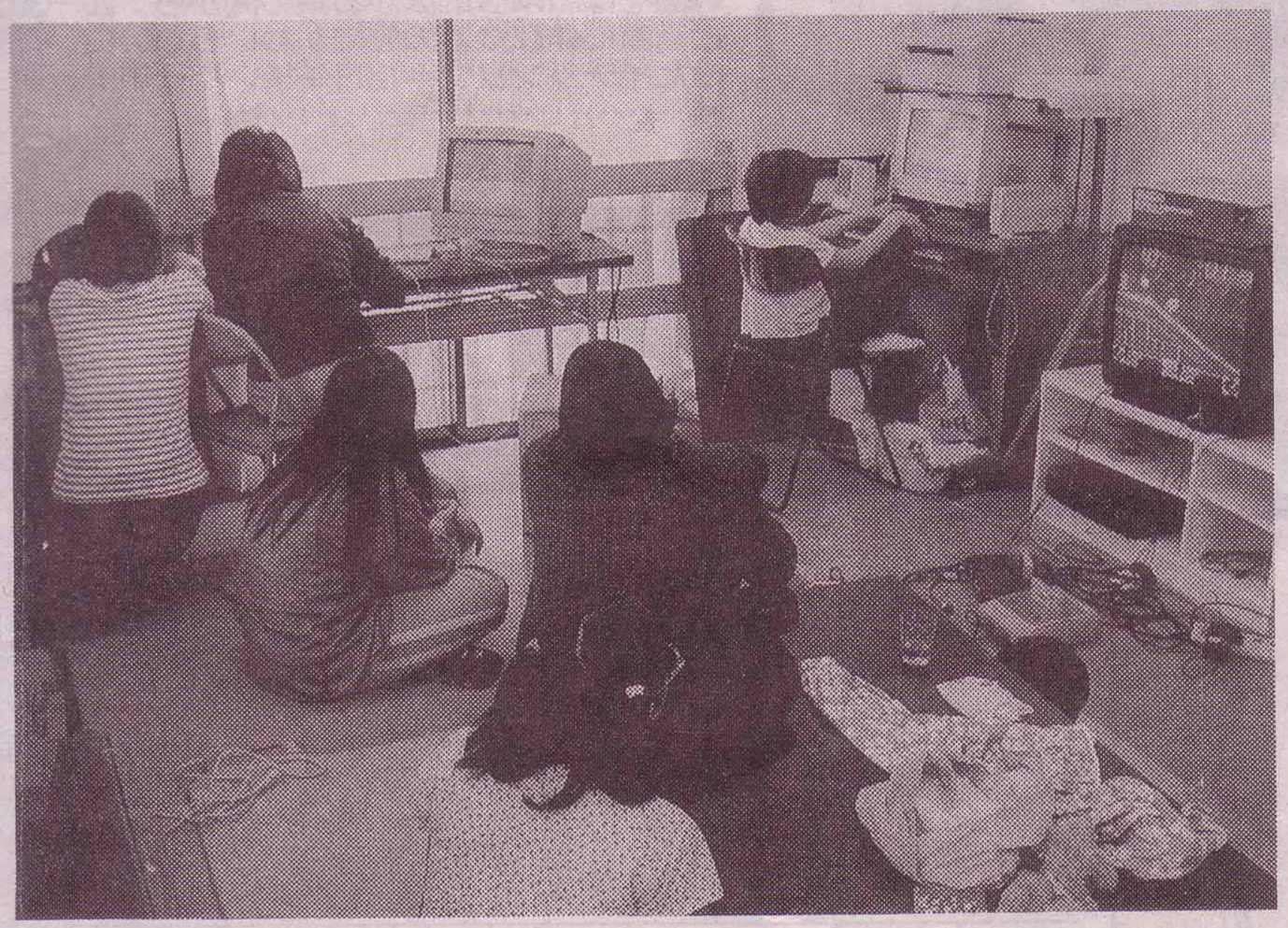
スクール生の人数は二十数人。越谷、草加、三郷など県東部地域や、鶴ケ島市、都内から通ってくる子もいる。年齢は九歳から二十二歳まで。スタッフは六人で、教員の資格を持っている人が多い。

活動の内容や時間割は月に一回、スタッフと子どもたち全員が参加する運営会議で決める。多数決で決めるため、子どもたちの発言力のほうが強い。スタッフの増田良枝さん(五)は「子どもたちが主役なんだから、意見を聞かないとやっていけない。自分たちが決めたもので不都合なことが起きても、困るのは自分たち。これもまた勉強です」。

カリキュラムは、ゲームやスポーツをする自由時間ばかりではない。通信制高校の課題や大検の勉強などをする教科学習、屋外などで複数のジャンルにまたがる内容を学ぶ「総合学習」もある。一芸に秀でた人を講師に招く「特別講座」では、ギター演奏会やスパゲティー作りも挑戦した。

出席や授業の強制もない。来たい時に来て、やりたいことをして帰る。友達と触れ合い、何かができる居場所といった雰囲気。スクール生の少女(一五)は「ここは自分で決めて行動することができる自由な場所。時間もたっぷりあるので、テニスや習字なども習ってみたい」という。

増田さんは「(不登校の子には)目標を見失い、自分の頭で一生懸命考えて、生きる道を探している子も多い」と話す。「りんごの木は通過点のひとつでいいと思う。運営会議や異年齢の子どもたちとのかかわりなどを通じて、人として生きていく上で大切なことを学び、自立に結びつけていってほしい」



パソコンを使って絵を描いたり、テレビゲームで遊ぶなど思い思いの活動をする子どもたち＝越谷市千間台西一丁目のフリースクールりんごの木